



# JAL不当解雇撤回ニュース

No246 号 2013.0116  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819  
<http://www.ialkaikote>

## 解雇から3度目の新年を迎えて

### 新春女性宣伝行動 決意新たに！ 勝利の年へ！

#### 新春女性宣伝行動

1月10日昼



#### 空の安全と女性の権利を守ろう

1月10日の昼時間に有楽町マリオン前で、客室乗務員原告と支援する女性団体による新春女性団体宣伝が行われました。

日本婦人団体連合会・新日本婦人の会・全労連女性部・日本航空キャビンクルーユニオンが主催し、18団体50人が参加しました。

原告や支援者によるリレートークにより、空の安全と女性の権利を守ろうと、切れ目のない訴えが続きました。

米ボルチモアのネットニュース配信会社の取材がありました。26日放映予定です。

#### JAL 本社前宣伝行動

1月10日夕方



#### 解雇自由の社会にしないという 一点で粘り強く闘って行こう！

##### 大黒・金沢共同代表が年頭の決意

全労連 大黒議長：国や大企業が不当な解雇をすれば、中小企業はそれにならう。国民が望んでいる政治の転換と JAL の解雇撤回闘争を粘り強く闘っていく。

全労協 金澤議長：安心して働き生活できる社会に戻すため、JAL の不当解雇撤回の闘いを、全労働者の闘いにしなければならない。解雇自由の社会にしないという一点で、今年こそ勝利の展望が見える闘いを作っていく。

整理解雇されてから丸2年が経ち、3回目のお正月を迎えました。改めて日本航空に解決を求めるため、2013 年最初の本社前宣伝を行いました。各団体の旗開きがある中 75 名が参加しました。





## 裁判闘争と皆さんの運動を両輪に一日も早い勝利を

弁護団から安原弁護士が挨拶

管財人として破産実務に携わって来た人からも、『この判決はおかしい。こんなやり方をしたら、倒産業務も労働法理もおかしくなる。』と声を挙げてくる専門家たちが次々と現れています。裁判闘争と皆さんの運動を車の両輪にして、勝利報告を一日も早く実現したい。

## 「勝利するまで闘う」と決意を表明 原告の小国さん、山口さん

客乗原告の小国さんは「解雇されなければ、2月3日にラストフライトを迎えていたはず。大晦日の寒空に解雇したのは残虐行為そのもの」と、解雇の不当性を強調しました。

また乗員原告の山口さんは、「JALの解雇は憲法違反のオンパレードです。27条の働く権利の侵害、病欠と年齢基準は基本的人権の蹂躪、13条の幸福追求権を踏みにじり、28条の団結権を侵害し、21条の集会や結社の自由の侵害等。2年間の闘いを土台にして労務姿勢を改めさせ、解雇撤回させるまで頑張る」と闘う決意表明しました。



原告の小国さん(左)と山口団長(右)

## キャノンの争議の勝利判決報告に勇気をもらいました

### この勝利は皆さんと共に勝ち取った勝利です

キャノン非正規労組阿久津さん

正社員である地位確認を東京地裁で、組合に対する不当労働行為を都労委の場で争ってきました。昨年12月20日、都労委の場でキャノンと和解が成立しました。原告5人の内2人を関連会社ではあるが正社員雇用させ、解決金も解雇撤回と評価しうる額を取りました。勝利解決です。ありがとうございました。

組合を作って6年2カ月、解雇されて3年4カ月、私たちにとっては本当に長い闘いでした。また10名にも満たない上部団体もない、小さな非正規労働者が作った組合でも、多くの労働者と連帯し、諦めることなく闘い続け、大企業の横暴をはねのけることができました。この勝利は皆さんと共に勝ち取った勝利だと思います。

しかし、非正規労働者の闘いは、いばらの道をいかなければなりません。パナソニックPDPも最高裁不当判決以降、派遣先、派遣元共に派遣法違反をしていたと裁判所が認定しながら、裁判所は派遣先に対しては、労働者に対して損害賠償すら払う必要ないという判決が確定し始めています。今や偽装請負・違法派遣では訴訟すらおこせず、違法な職場でも声さえあげられなくなっています。その中で私達の解決は偽装請負で働かされていた非正規労働者が、雇用の実態のある請負先のキャノンに明確に責任を取らせ、正社員化し、キャノンに派遣法違反の是正指導を真摯に受け止め、同様の指導がないよう不断の努力を継続すると表明させました。

これは違法を知った労働者が違法を告発し闘って救済されるという、多くの非正規争議を励ますものであり、違法な職場で声さえあげられない非正規労働者が労働者としての権利を取り戻す一步になると思っています。ソニー労組の中も勝利があったように、解決をより高い勝利に違法を犯した企業の責任を厳しく問い、違法行為を行わなくなるという社会を持たなければならないと思っています。

2010年JALの院内集会で私は、「非正規労働という夢も希望もない働き方をしなくて、安心して働きたいと正社員化を求めて来た。私達が求めて来たのは、首切り自由の正社員ではない。家庭を築き、子供に教育を授け、親の面倒を見、自らも仕事を通じて社会に貢献したいという願いを持っている。この願いは皆さんと同じです。非正規と正社員を分断する動きに負けず、共に人間らしく暮らしたいという共通の願いに向って連帯して頑張りましょう。」と話しました。首切り自由の波が大きく広がっています。JAL争議、非正規争議、そしてすべての争議に勝利し、安心して働き、人間らしく暮らせるという社会を作るために共に頑張りましょう。

